

第 556 回霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会 議事録

日 時	令和 5 年 10 月 3 日 (火) 午前 10 時 21 分	
場 所	土浦市真鍋 5-17-26 土浦合同庁舎 本庁舎 第 1 会議室	
議 題	<p>議題等</p> <p>(1) 第 1 種区画漁業 (小割式養殖業) に係る免許の基本方針 (案) 及び取扱方針 (案) について【協議】</p> <p>(2) 第 2 種共同漁業 (張網漁業) 及び第 1 種区画漁業 (真珠養殖業) に係る免許の結果について【報告】</p> <p>(3) 令和 6 年度全国海区漁業調整委員会連合会中央要望提案について【報告】</p> <p>(4) テナガエビ資源の状況について【報告】</p> <p>(5) その他</p>	
出席委員	1 番 鈴 木 幸 雄 3 番 大 崎 匠 6 番 薄 井 征 記 10 番 太 田 牧 人 12 番 中 泉 義 美 14 番 加 納 光 樹	2 番 海 老 澤 武 美 5 番 相 崎 守 弘 7 番 鈴 木 友 子 11 番 鬼 沢 弘 明 13 番 小 原 一 八
欠席委員	8 番 理 崎 茂 男	
県側出席者	霞ヶ浦北浦水産事務所所長 〃 漁業調整課長 〃 漁業調整課主任 〃 漁業調整課技師 〃 振興課長 〃 指導課長 〃 霞ヶ浦支所技師 水産試験場内水面支場長 〃 内水面資源部長	小曾戸 誠 益子 剛 谷中 周平 飯田 隼人 半澤 浩美 星野 尚重 西口 晃人 根本 孝 小日向 寿夫

” 内水面資源部主任 高濱 優太

事務局 事務局長 根本 隆夫
係長 中山 敦司

傍聴人 なし

議事録署名人 5番 相 崎 守 弘 6番 薄 井 征 記

議長 1番 鈴 木 幸 雄

会議内容
開会 午前10時21分

根本事務局長 〔開会宣言〕
〔資料確認後、鈴木会長に挨拶を依頼〕

鈴木幸雄会長 おはようございます。
皆様にはお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。
長くて暑い夏もいづらかようやく終わってきたかなって感じになりましたけども、今年は皆さん、私も含め、夏の疲れが大分残っているかと思いますが、季節の変わり目となりましたので体調の方にはくれぐれも気をつけていただきたいと思います。
さて、トロール漁は9月からのエビ漁が霞ヶ浦で久しぶりに好漁が続
き、北浦でも回復の兆しが見えてきたと聞いております。観光客も多くな
り、需要も増えているところなので、そのほかの資源についても回復を願
うばかりです。
本日の議題は「第1種区画漁業（小割式養殖業）に係る免許の基本方針
（案）及び取扱方針（案）について」ほか3題となっております。これか
ら小割式の免許一斉切り替えの協議が始まっていきます。本日も皆様に
活発な討議をお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

根本事務局長 〔県に挨拶を依頼〕

小曾戸所長 おはようございます。

霞ヶ浦北浦水産事務所の小曾戸でございます。

委員の皆様には委員会の御出席に感謝申し上げます。

先ほど会長の挨拶がありましたが、今年の夏は35度を超えるような猛暑日の日数が、全国各地で過去最高を記録するなど、専門家の会合の中でも異常気象と言えるところの認識が示されたところでございます。

そうした中で、こうした猛暑の影響がやはり今期のトロール漁にも影響しております、ワカサギについては解禁当初から懸念をされていましたが、やはり高水温の影響等もあって、漁期前調査では多少なりとも見えてはいたんですが、ここ最近では混獲でもほとんどワカサギが見えなくなってしまったということで、今年の冬場に予定している人工ふ化放流事業の親魚の確保もできるかどうか懸念されているという状況でございます。

またシラウオについても、本格的なシーズンはこれからですが、解禁後はそれなりに魚が見えていたのですが、やはり夏の間ほとんど成長が見られない状況で、資源量も決して多いという状況ではなく、非常に厳しい状況かなと思っております。

そうした中で唯一、テナガエビについては、今期は9月4日に操業が開始されまして、当初から一隻で100キロを超えるような漁獲量が見られたということで、令和元年以降、ずっと減少の一途だったのですが、それが4年ぶりに漁獲量が増加に転じるのではないかと期待しているところでございます。

こうした魚種ごとの好不漁の要因というのはこれまでも試験場でもずっと調べてきているのですが、なかなか難しく、断定するには至っていないという状況でございますが、少なくとも今期のテナガエビのように、一定の条件がそろえばまだまだ資源が回復する余地があると前向きにとらえて、今後はこうした条件がそろったときにきちんと資源回復できるように、できる限りの生息場所とか、産卵場など、そういった湖沼環境の改善に取り組んでいくことが重要なのではないかと考えているところでございます。

本日は来年度に予定している小割式養殖業の免許更新に係る基本方針の協議のほか、テナガエビの今期の資源の状況について内水支からの報告もでございます。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

根本事務局長

続きまして次第3、議長の選出ですが、当委員会の会議規程第2条第2

項の規定により、会長が議長を務めることになっておりますので、鈴木会長に議長をお願いいたします。

議長（鈴木幸雄会長）

それでは、議長を務めさせていただきます。
次第4の出席委員数の報告を事務局からお願いします。

根本事務局長

出席委員数を報告させていただきます。
本委員会の委員定数は12名でございますが、本日は11名の出席をいただいております。過半数を超えておりますので、漁業法第145条の規定により本日の委員会が成立していることを御報告いたします。

鈴木幸雄議長

ただ今の報告のとおり、本日の委員会は成立しております。

鈴木幸雄議長

続きまして、次第5の議事録署名人ですが、私から指名いたします。
5番相崎委員と6番薄井委員をお願いします。

鈴木幸雄議長

それでは、次第6の議題に入ります。
議題（1）の「第1種区画漁業（小割式養殖業）に係る免許の基本方針（案）及び取扱方針（案）について」です。水産事務所から説明をお願いします。

飯田技師

（資料1-1から資料1-4により説明。）

鈴木幸雄議長

はい、ただ今の説明に御意見、御質問がございましたら、お願いします。

10番太田牧人

はい（挙手）。

鈴木幸雄議長

はいどうぞ。

10番太田牧人

先ほどちょっと説明で触れていただいたんですが、網いけすの切り替えにあたっては、これまでの切り替えでは水質浄化上の要請というかです、その強弱とかいろいろ県努力が問題となったと思うんですが。
昨今、その水質浄化上の要請ってのは、例えば、なるべく減らせとかね、また現状維持だったら問題ないよねとかね。そのへんはどうなんですか。

飯田技師

はい。

昨今特にそういった要請はございませんので、漁業調整課としましては現状の水準であれば問題ないのかなと考えております。

10番太田牧人

わかりました。

そうしますともう一つの点で、あと、その魚種について比較的自由になるというところがあったんですが、その現状の維持、現状の面数の範囲内だったら、今ね休業状態のようなものを例えば違う魚種をね、入れて、漁業を営むというようなことも可能だと考えてよろしいでしょうか。

益子課長

はい。

漁業調整課の益子です。

おっしゃるとおりだと思いますが、比較的自由というよりか今後、新たな魚種に着手していってみたいという相談があった際には、これまでのように、漁場計画の変更を伴わずとも、行使規則、知事の認可が必要なものですけど、これで変更対応ができると。新旧対照表のほうでも触れておりますが、国の技術的助言においてもそのような指導がされておりますので、それに倣ったかたちとなっております。

10番太田牧人

はい。わかりました。よろしく申し上げます。

鈴木幸雄議長

他にありませんか。

(委員)

(特になし)

鈴木幸雄議長

それではないようですので、この内容で進めていくということで承認したいと思いますので、今後の手続きの方よろしく願いいたします。

鈴木幸雄議長

続いて議題(2)「第2種共同漁業(張網漁業)及び第1種区画漁業(真珠養殖業)に係る免許の結果について」です。水産事務所から報告をお願いします。

飯田技師

(資料2により説明。)

鈴木幸雄議長	ただ今の説明に御意見、御質問がございましたら、お願いします。
(委員)	(特になし)
鈴木幸雄議長	ありませんか。 それではないようですので報告の方ありがとうございました。
鈴木幸雄議長	続いて、議題(3)「令和6年度全国海区漁業調整委員会連合会中央要望提案について」です。事務局から報告をお願いします。
中山係長	(資料3により説明。)
鈴木幸雄議長	ただ今の説明に関して、御意見、御質問ございましたらお願いいたします。
(委員)	(特になし)
鈴木幸雄議長	この件に関しては今説明がありましたように、大体が海のものが多いものですから、当海区調整委員会としても、ここ数年、ほとんど要望的なものが出てないもので、本年度は、事務局と相談の上、要望なしということで出しましたので、よろしくお願ひしたいと思います。 それでは御意見等ございませんようですので、次進めたいと思います。
鈴木幸雄議長	続いて、議題(4)「テナガエビ資源の状況について」です。内水面支場から報告をお願いします。
高濱技師	(資料4(プロジェクター)により説明。)
鈴木幸雄議長	ただ今の説明に関して、御意見、御質問ございましたらお願いいたします。
11番鬼沢弘明	はい(挙手)。
鈴木幸雄議長	はい、どうぞ。

11番鬼沢弘明 あ、親がいなかったなので、卵が少ないとは思いますが、何でこのような異常な発生が起きたのかわかりますか。

高濱技師 はい。試験場です。

おっしゃるとおり確かに去年の年末12月時点での、獲れるエビの量というのは非常に少なく、今年初めの親の量というのは、少ないものとみていました。

エビの親自体は1年経過して翌年、大きく成長したものがその年の初めの親になりますが、その量は確かに少なかったということになります。

ただですね、今年については先ほど申し上げたとおり、卵が産まれる時期が早かったということもありまして、今年生まれの小さな子エビが成長して小さな親エビになり、この加入が多かったことが、結果的にふ化するエビが増えたことで、漁獲量が増えたことにつながったとみています。

11番鬼沢弘明 私ずっと漁をやっていたんですけど、一番獲れたときで、私はイサザひいてたんですけど、7月からはエビひきをしました。6月中はエビが一番獲れたときで30キロぐらい獲れたときあったんですけど、その中で卵を持ってるのは半分にも満たなかったんですね。それで7月に入ると、10キロのエビを獲ることができなかったんですね。大体、横ひきの場合は、10回ぐらいはできるんですけど、8回から10回ぐらいの割合でできるんですけど、まず7月に入ってから10キロのエビは獲れたことはありませんでした。

だから何故このように異常に発生したのかなってというのが疑問にあって、入るにしても元々のエビがいなかったもんですから、やっぱりエビの卵っていうのは数年生きてるのかなっていう噂も聞いてるんで、そういう状況もあるのかなって思っているんですけどね。

高濱技師 補足しますと、資料の3ページ目と4ページ目を見比べていただきたいと思います。

3ページ目は、トロール漁で獲れた沖のエビの大きさのグラフになります。こちらでは、棒にほとんど赤い部分、抱卵したエビですけれども、沖では抱卵したエビはほとんど見当たりませんでした。

4ページの一番上のグラフというのは、試験場のすぐそばにある栈橋、湖岸付近で獲れたエビの大きさになります。こちら、赤い部分、抱卵したエビが多く見ついているというグラフになっています。

結果的に、トロール漁でひくような沖よりも、棧橋、湖岸に近い位置に、親のエビが集まっているのではないかとみています。

11番鬼沢弘明

ありがとうございます。

鈴木幸雄議長

それではほかに。

2番海老澤武

(挙手)

美

鈴木幸雄議長

はいどうぞ。

2番海老澤武

美

エビの漁は北浦も、もともとは獲れたんですよね。張網でも9月の時期になると、1シドで100キロぐらいは入ってたんです。だからそういうエビが、ここ10年ぐらい前から張網では外来魚の件もありますけども、食害でなくなるようなことがない魚なんですね、イサザとか、テナガエビなんかはね。いくら食べても、わくれるほど増えるのがイサザとエビ。小魚、ゴロもそうですが。そういう状況なのに、ここ10数年、そして霞ヶ浦の方は、今年はワカサギ、シラウオは不漁だけど、エビはまた復活しました。

そういう中でなぜ北浦だけがこのような不漁が続いているのか。これは試験場でわかる範囲で結構ですから。

そうでないと。対策が取れないわけですよ。何が原因でこうなっているかわからないで、ただ酸素が無いから、プランクトンがないから、温暖化だからって言うことでは、これはみんな素人でも肌で感じるわけですが。

ただ、元々は、わくれるほどいたワカサギも、帆引き船のことで私も対談したコメントがちょっとこの間、引き出しから出したら載ってたんですが、フナなんか、大徳漁業を私やってましたから、うちの親父が。私も手伝ってましたが、1日5トン獲れた日があったんですよ。5トン。ヘラブナ。皆さん5トンのヘラっていうのはすごいよ。漁業者ではあんまり出くわせない漁獲高じゃないかなと私も。

ワカサギは夜びき、昔は私が、中学生のころは夜びきだったから、1トン半、1回。どのぐらいの量だか皆さん想像つきますか。そんで、生(き)ワカ、ワカサギ、ワカサギばかり。あとウナギのダツ。黒いの。メソ、メソって言ってたねあのころ。

そういうふうに獲れていた湖が、今船が出せないって言って5年もこうなってるのに、白浜の観測所の所とか、北浦大橋の一番深い所が酸欠、酸素が無いとか、それは私らも酸素測定器で調べれば、子供たちでもそれはわかるんだよね、酸素が無いとか、測定すればわかりますからね。表面と底が違うのもわかります。

何故そういうことがわかっていながら、この手の打ちようがないのでしょうか。これ、もし茨城県の水産試験場で、もしわかんなかったらば、これは知事さんに言って国で専門的にそういう調査してる機関があれば、予算を組んでいただいて、調査してもらおうようなことができないのでしょうか。

これ私達、漁業組合では何とも、漁師は、毎年毎年、この北浦では、魚は人工ふ化をやって、県の指導のもとにやってるわけですよ。これ皆さん漁師さんが乱獲しちゃったわけではありません。

そういう中で何年たっても、資源回復の見込みがない。

こういう状況なので、原因たるものが早く見つければいいと思うんですが、今年の漁模様のエビ漁は、どうのこうの言ってますが、全く商売になるような数量は獲れておりません。10キロから20キロですから、これは商売になるはずがないですよ、皆さんね。

こういうことがあと10年も続いたら、きたうら広域漁協には漁師はいなくなると思います。なぜなら魚がいなくなっちゃうから。

そのいなくなった原因を早く、調べていただいて、何とかそれを管理してるところに異議申し立てをしなければならぬんじゃないかなど、私は考えてますが、今日来ている委員の皆さんにはちょっと、どう思うか。北浦の現状。毎回毎回、ワカサギが不漁、シラウオが不漁、エビが不漁、ゴロも何もいなくなっちゃった。フナもコイも何もいなくなったと。というような現状を踏まえて、ちょっと皆さんにも霞ヶ浦が順調だからいいやっていうような話ではなくて。水系が同じなわけですから。

ぜひとも、御意見を。もし持ってる方がいらっしゃれば、お聞かせをいただきたい。そのように思います。

よろしくをお願いします。

鈴木幸雄議長

ただ今の海老沢委員さんからの御指摘ですが、何か御意見等ございましたらお願いいたします。

鈴木幸雄議長

実際のところ北浦は不漁が続いてますが、霞ヶ浦も今年はシラウオが

春の時点ではかなり好漁が見込まれたんですが、実際のところワカサギは高温っていうこともあったんで、死んだりなんかってこともあるんでしょうけども、シラウオが獲れなくなってしまったと。実際にいたのがいなくなってしまったというような現状もありますんで、これ北浦だけの問題ではなくて、霞ヶ浦の方にもそういう現象が起こるんじゃないかという危惧がされる状況ですので、何か、これに対して御意見等ございましたらお願いいたします。

12番中泉義美

はい（挙手）。

私も漁業者代表なんですが、今、北浦の海老澤さんが言ったとおり、まさしくその対策は、原因がわからないと対策できない。その原因を一刻も早く究明してもらいたい。

それとですね、直近で、今、鈴木さんが言ったようにね。去年まであんなにシラウオが獲れていたのに急に獲れなくなる。これ徐々に減ってるっていうんなら、何らかのあれもあるでしょうけども。本当に急に減ったと。

それから、今年の3月頃でしたか。内水支の山崎さんが、産卵状況の調査ということで、美浦の下と、それから浮島の下を調査したときは、ものすごい量の卵もあったと。それが、蓋開けてみたら、今のような状態。

これ、どうでしょうね。今。そのわかる範囲でいいですけども。

これわからない、わからないで先延ばしになったら、いつになっても対策のしようがないでしょうから。シラウオに関してどうですか今年の状態。

小日向部長

水産試験場内水面支場の小日向です。

シラウオが春先には稚魚が見られていたけれども、その後の漁で混獲されないという状況であるのは事実でございます。

その件について、内水支でも考えているところですけども、状況を時系列で把握している範囲で御説明しますと、まず、昨年12月時点の親の量につきましては、過去10年と比較すると、中位の程度ということで、この時点では残っていたと。

今、中泉委員の御発言があったとおり、今年の3月に浮島から美浦地先で実施しました産卵場調査では、最大で平米当たり3万粒を超えるようなシラウオ卵を確認しております。

また4月から5月に湖内で網を使った仔魚の出現状況調査をやりまし

たが、そこでも仔魚が入っておりまして、そこまではいたのだろうと。

その後、5月末の横ひき網では、シラウオ稚魚の混獲は昨年より少ない状況ということで、この流れから考えますと、現時点では、仔稚魚期以降に何らかの原因で減耗が生じた可能性があるのではないかと考えております。

減耗の原因は、現時点でこれだという断定はできませんけれども、考えられる原因としては、餌となる生物が少なかったであるとか、他の生物との競合、例えば今年の5月中旬以降にイサザアミがかなりまとまった数で漁獲されておりまして、そういったものとの競合などが考えられるのではないかと思います。

引き続きデータを整理しまして、過去に漁獲量が急減した年と比較するなどして、原因を検討していきたいと考えております。

以上です。

11番鬼沢弘明

いいですか。

鈴木幸雄議長

はいどうぞ。

11番鬼沢弘明

6月にイサザひきをやりました。

その時にいつもですとシラウオなんか目が刺すんですけど、今年はほとんど綺麗なイサザが獲れました。ですから、その時点ではもうシラウオはほとんどいなかったですね。場所的には、大体どこでも入る、去年までは牛渡、あと江戸崎、あと手賀、田伏、その辺でのイサザひきがほとんどで、大体10隻いるかいないかなんですね。

去年あたりですと、大体7月に近づくようになると、イサザに少しシラウオが混じってくるんですけど、今年の場合はもう最初から最後までほとんどシラウオは見えなかった状態です。

1日とか(混獲した)っていう事例はありましたけど、ほとんど今年の場合はイサザが綺麗な状態で獲れましたので、ちょっとその時点でも、シラウオは少ないのかなとは思っていました。はい。

鈴木幸雄議長

他に何かございますか。

鈴木幸雄議長

これは今年の場合にはさっきも言いましたように予想からいくとシラウオをある程度は獲れるんじゃないか、エビはさほどではないんじゃないかな

いかってというのが逆転してしまって、エビは実際よりも獲れましたが、シラウオは獲れないというような状況。

これが来年度の予測っていうか、どうなっていくのかなっていうようなことも出てくるので、ある程度こういうことが原因じゃないかとか、それが原因の一つであれば、来年度の予想として来年度は、来年度っていうか春先での予想がこういうふうになってくんじゃないかっていうようなことも、ある程度は立てられる部分も出てくるのかなとは思いますが、できるだけそのへんを、何とか事務所としても、先ほど海老澤さんからありましたように、県だけで対応できない部分であれば、国の方とも相談して、そのへんのところも、やっていっていただければと思います。

実際のところ、先ほど海老澤さんからありましたけども、霞ヶ浦はエビが今年は獲れたらいいけどと、結果的にはそうなりましたけど。来年もどうなるのかと。下手したら、シラウオ駄目、エビが駄目になったらもう、漁獲物ってのはほとんどないような状況になってきますので。そのへんのところもよろしくお願ひしたいと思っています。

鈴木幸雄議長

では他にないようでしたら、次進みたいと思います。
続きまして「その他」ですが、まず県の方からお願いいたします。

星野課長

(資料5により「水産物の放射性物質検査結果について」説明。)

鈴木幸雄議長

ただ今の報告に対しまして、何か御意見、御質問ございましたらお願いいたします。
ありませんか。

(委員)

(特になし)

鈴木幸雄議長

それではないようですので、他に県の方からございますか。

中山係長

(資料6により「第15期茨城県海面利用協議会について」説明。)

鈴木幸雄議長

ただ今の報告に何か御質問がございましたら、お願いします。

(委員)

(特になし)

鈴木幸雄議長

それでは、他に何か県からありますか。

鈴木幸雄議長

それではないようですので、委員の皆様から何かございますか。

(委員)

(特になし)

鈴木幸雄議長

それでは特に意見もないようですので、これをもちまして本日の委員会を終了したいと思います。

皆様の御協力により、円滑に議事進行できました。御協力ありがとうございました。

根本局長

長時間にわたりまして御審議いただきありがとうございました。

次回の開催は、すでに御案内いたしましたが、11月10日の9時半、いつもより早い9時半から、視察研修を兼ねて、霞ヶ浦導水高浜機場の建設予定地での現地開催を予定しています。

場所はここではなくて、高浜機場ということです。議題については改めて御案内申し上げます。

それではこれをもちまして委員会を閉会といたします。

閉会 午前11時21分

上記の記録の正確なことを認め署名する。

令和 年 月 日

議 長

議事録署名人
